

- 6月の米個人消費支出は前月比+1.1%と、6カ月連続で増加した一方、実質ベースでは同+0.1%と、伸びは低水準に。個人所得は9カ月連続で増加、貯蓄率はおよそ13年ぶりの水準へ低下。
- 物価指標であるPCE価格指数は前年同月比+6.8%と、40年ぶりの高い伸び。物価上昇に対処すべく、消費者が貯蓄を取り崩して消費に回す様子がうかがえ、米個人消費悪化の可能性に注意が必要。

米個人消費支出は6カ月連続で増加も、実質低水準に

7月29日に発表された6月の米個人消費支出（PCE）は前月比+1.1%と、市場予想の同+1.0%（ブルームバーグ集計。以下、同じ。）を上回り、6カ月連続で増加しました。一方、実質*PCEは同+0.1%と、伸びは低水準にとどまりました。*物価上昇の影響を除いたベース

実質PCEの内訳をみると、「モノ（財）」は同+0.1%と、2カ月ぶりに増加しました。耐久財は自動車・同部品の持ち直しがけん引し、同+0.9%と、2カ月ぶりに増加しました。これに対し、非耐久財は食品・飲料が5カ月連続で減少したほか、衣料品・靴やガソリンの減少が足を引っ張り、同-0.4%と、5カ月連続で減少しました。「サービス」はヘルスケアや飲食・接客などの増加を交通サービスの減少が一部相殺し同+0.1%と、今年に入り伸びは最低でした。

個人所得は同+0.6%と、9カ月連続で増加しました。一方、貯蓄率は5.1%と、2009年8月以来、およそ13年ぶりの水準へ低下しました。

米10年国債利回りはおよそ4カ月ぶりの低水準

米連邦準備理事会（FRB）が物価指標として参照するPCE価格指数は前月比+1.0%と、市場予想の同+0.9%を上回り、2005年9月以来、およそ17年ぶりの高い伸びとなりました。このうち、振れの大きい食品とエネルギーを除いたコアPCE価格指数は同+0.6%と、市場予想の同+0.5%を上回りました。

このほか、前年同月比では+6.8%と、1982年1月以来、およそ40年ぶりの高い伸びを記録しました。コアPCE価格指数は同+4.8%と、市場予想の同+4.7%を上回り、4カ月ぶりに伸びが加速しました。

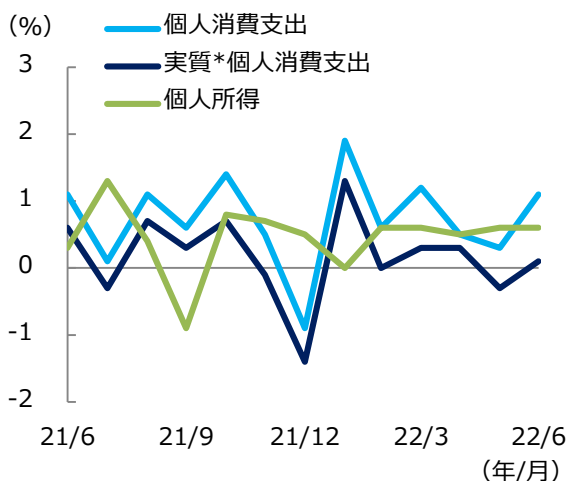
7月29日の米国市場では、10年国債利回りが2.64%台と、4月6日以来、およそ4カ月ぶりの低水準で取引を終了しました。PCE価格指数の伸びが市場予想を上回ったことで、米国の金融引き締めが景気減速や後退につながるとの懸念が背景にあったと考えられます。

PCE統計の内容からは、物価上昇に対処すべく、消費者が貯蓄を取り崩して消費に回す様子がうかがえます。また、実質ベースの消費の伸びは足もとで緩慢にとどまっており、今後の米個人消費が悪化する可能性に注意が必要です。

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

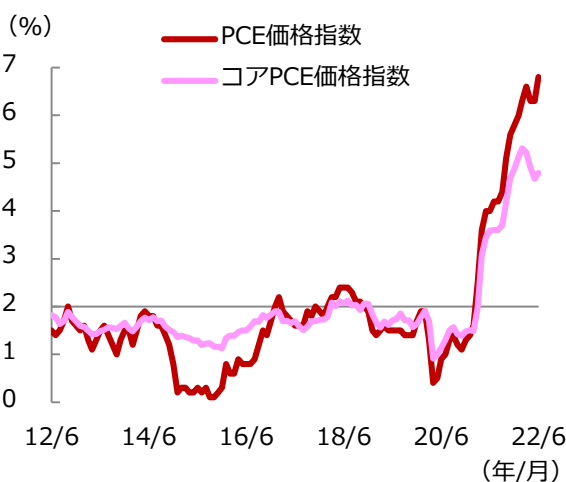
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

米個人消費支出と個人所得の推移



※期間：2021年6月～2022年6月（月次）
前月比、季節調整済み

米PCE価格指数の推移



※期間：2012年6月～2022年6月（月次）
前年同月比

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。